

精神看護学

【科目構成とねらい】

わが国では、少子高齢化、情報化、グローバリゼーションの進展等を背景に、精神保健の充実が求められている。現代社会は、高度な情報化や価値の多様化により、人々の生活に便利さをもたらすと同時に、精神的ストレスに満ちた状況にある。精神障害は、誰にでも生じる可能性のある身近な障害で、(厚生労働省. 2004)、生きにくさを抱えながら生活している人々が増えている。

施策としては、大地震や豪雨等の自然災害や、人為的災害を受けた人々に対して、こころのケアを提供する体制も推進されている(厚生労働省. 2014)。また、自殺対策基本法(2016年)に基づき、様々な自殺対策に取り組みが行われている。多様なニーズを抱える社会において、誰もが安心して暮らせる社会を作るために、精神障害への理解と精神保健の充実を図るための取り組みが行われており、精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築を目指すことが示されている。(厚生労働省. 2017)

精神看護学では、精神に障害があり生きている人の理解を深め、その人らしく生きるための支援と、現代の人々が抱える精神的課題に対する支援や普及啓発を行うために必要な知識と技術を学習する。

「精神看護学概論」

精神看護の目的と対象を理解するため、精神の健康とその障害について学習する。また、精神保健福祉の歴史を概観し、精神に障害がある人の権利擁護、および精神保健福祉の現状と課題、法律について学習する。

「精神に障害がある人を支える看護の基本」

精神に障害のある人が疾患の影響を受け、医療及び保護が必要な状況に対して安全と安楽を提供するために必要な看護について学習する。また、精神に障害のある人との関係構築に必要な治療的コミュニケーション技術や再構成による自己洞察についても学習する。

「精神の障害とともに生きるを支える看護」

さまざまな精神疾患により生じる影響を踏まえて、障害とともにその人らしく生きることを支えるために必要な看護について学習する。精神の障害とともに生きる人の感じる生きにくさを理解し、他者や社会とのつながりを回復し、自分らしい生活様式や生活行動を送るために必要な看護について学習する。

「精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護」

精神に障害のある人が、その人らしく地域で生活を送るために必要な社会資源やサービス、精神に障害のある人を支える医療チーム(多職種)との連携について学習する。その人らしく暮らすことに重要な自己決定支援についても学習する。障害がありながら地域で生活する人や支援の実際について、演習を通して理解を深める。

【目的】

精神の健康の保持・増進、精神に障害がありながらその人らしく生きるための支援に必要な基礎的能力を養う。

【目標】

1. 精神の機能と発達、精神的健康の保持増進の支援に必要な基礎知識を理解する。
2. 精神の障害が、その人らしく生きることに与える影響と回復過程を理解する。
3. 精神に障害があり医療や保護を受け生きている場における看護技術を理解する。
4. 精神の障害とともにその人らしく生きるために、暮らしを支える資源とケアマネジメントを理解する。
5. 精神の障害とともにその人らしく生きるための自己決定を支え、多職種との連携が考えられる。
6. 精神保健医療福祉の変遷と今後の課題を学び、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割が考えられる。

【構成および計画】

科目	単位数	履修時期		
		1年次	2年次	3年次
精神看護学概論	1	○		
精神に障害がある人を支える看護の基本	1		○	
精神の障害とともに生きるを支える看護	1		○	
精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護	1		○	

授業計画

科目名	精神看護学概論		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	1 年次
科目 目標	1. その人らしく生きるための精神看護の目的と意義、精神的健康の概念を理解する。 2. ライフサイクルや社会の動向における精神保健と危機状況を理解する。 3. 精神保健福祉の変遷を踏まえ、精神に障害のある人がその人らしく生きるための社会 復帰や地域に必要な社会制度を理解する。					
回	単 元	内 容		形式	担当教員 *実務経験のある教員	
第 1 回	精神看護の目的・対象、役割と機能	精神看護の考え方 現代社会における精神保健（災害や自殺など） 精神看護と精神科看護、目的・対象		講義	専任教員*	
第 2 回		精神の健康 精神の健康の定義（WHO）、問題と強み 脳の基本的構造と精神の機能 精神障害と国際生活機能分類（ICF）		講義	専任教員*	
第 3 回		精神看護の理論 ゴールマン、フロイト、エリクソン マラー、危機理論（自我の防衛機制含む） カプランの3つの予防概念		講義	専任教員*	
第 4 回	ライフサイクルにおける危機管理	発達段階における危機状況 乳幼児期、学童期、思春期、青年期 成人期、中年期、老年期の危機状況		講義	専任教員*	
第 5 回		暮らしの場での危機状況 家庭、学校、職場、社会生活		演習	専任教員*	
第 6 回		在宅医療・通院医療 災害によるストレス 適応障害など		講義	専任教員*	
第 7 回		災害による影響 強いストレスの影響（ASD, PTSD） 被災者と災害救援者の精神保健		講義	専任教員*	
第 8 回	リエゾン精神看護	身体疾患のある人の精神の健康 リエゾン精神看護とその活動		講義	専任教員*	
第 9 回	精神保健福祉の変遷と活動	精神保健医療福祉の歴史 欧米と日本の歴史		講義	専任教員*	
第 10 回		精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 精神障害者の権利を保障する法律、意義 精神科看護に関連する法制度		講義	専任教員*	
第 11 回		精神科の治療（処遇）と人権擁護 薬物療法、精神療法 環境療法、社会療法（作業療法など）		講義	専任教員*	
第 12 回		チーム医療における多職種連携の精神保健福祉施設の実際の見学		見学	専任教員*	
第 13 回		精神保健福祉における看護師の役割と課題 多職種連携、地域継続支援、外来看護 地域精神保健活動の現状と課題 精神保健医療に関する資源の活用と調整 地域調査の課題学習の発表		講義 演習	専任教員*	
第 14 回		地域包括ケアシステムを支える看護師の課題 長期入院者の地域移行における現状と課題		講義	専任教員*	
第 15 回		評価				
テキスト 参考図書	医学書院 精神看護の基礎 医学書院 精神看護の展開	精神看護学① 精神看護学②		評価 方法	筆記・レポート	
備考						

授業計画

科目名	精神に障害がある人を支える看護の基本		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次
科目 目標	1. 精神に障害がある人との関係の構築・発展のための技術を理解する。 2. 精神に障害があり医療や保護を受ける場を理解する。 3. 精神に障害があり医療及び保護を受ける場での必要な看護を理解する。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	精神障害と生活	精神障害の生活への影響 生活機能・対人関係、社会参加への影響	講義	専任教員*		
第 2 回	患者－看護師 関係の構築	対象理解と関係を構築するコミュニケーション技術 対象を理解するコミュニケーション技術 症状に合わせたコミュニケーション技術	講義	外部講師		
第 3 回		意図的・治療的コミュニケーション	校内 実習	外部講師		
第 4 回		精神に障害がある人との関係性のアセスメント 再構成の目的、意義、方法 患者－看護師関係のアセスメント	講義	外部講師		
第 5 回		再構成カンファレンス 自己洞察	講義 演習	外部講師		
第 6 回	精神科医療に 必要な看護	精神科医療の治療的環境 医療及び保護を受ける場と看護師役割	講義	専任教員*		
第 7 回		精神に障害がある人への検査・治療と看護 薬物療法	講義	専任教員*		
第 8 回		電気けいれん療法、精神療法 (SST など) 精神科リハビリテーション療法	講義	専任教員*		
第 9 回	安全を守る看護	精神科リスクマネジメント 精神科のリスクとマネジメント 安全を守る観察とアセスメント	講義	専任教員*		
第 10 回		観察とアセスメントの実際(演習)	講義 演習	専任教員*		
第 11 回	行動の制限と 看護	日常生活での行動の制限と看護 危険物、私物管理時の看護 外出、外泊、面会、通信時の看護	講義	専任教員*		
第 12 回		隔離・身体拘束時の看護 隔離室の治療的環境と合併症 Case learning：隔離、身体拘束の看護	講義	専任教員*		
第 13 回	緊急事態に 対する看護	自殺・暴力のリスクマネジメント 自殺、暴力の発動プロセスとアセスメント 自殺・暴力防止への関わり	講義	専任教員*		
第 14 回		無断離院の危険と法的責任 精神に障害がある人への災害時心理と支援 緊急事態発生後のスタッフへのサポート	講義	専任教員*		
第 15 回	評価					
テキスト 参考図書	医学書院 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 精神看護の展開 精神看護学②		評価 方法	筆記		
備考	【事前学習】 ・精神保健福祉法 ・精神科医療でおこなわれる検査・治療 【学習上の留意点等】 ・精神に障害がある人への看護技術が習得できるよう講義・演習を構築する。					

授業計画

科目名	精神の障害とともに生きるを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (30)	履修 時期	2 年次 4 月
科目 目標	1. 精神の障害とともにその人らしく生きるための看護の基本を理解する。 2. 精神の障害による影響を踏まえその人らしさを支える看護の実際を考える。					
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>		
第 1 回	精神の障害とともに生きる人のアセスメント	精神機能の障害の観察とアセスメント 精神障害が社会生活に与える影響 強み・対象者と援助者の認識の一致	講義 演習	専任教員*		
第 2 回	障害とともに生きる人への看護	統合失調症のある人への看護 Case learning:	講義 演習	外部講師		
第 3 回		幻覚・妄想、精神運動興奮のある人への支援 意欲低下や遂行能力の障害のある人への支援	講義 演習	外部講師		
第 4 回		気分障害のある人への看護 Case learning:	講義 演習	外部講師		
第 5 回		うつ状態のある人への支援 そう状態のある人への支援	講義 演習	外部講師		
第 6 回		精神作用物質使用による精神・行動の障害のある人への看護 Case learning: 依存への支援	講義 演習	外部講師		
第 7 回		パーソナリティ障害のある人への看護 Case learning: 社会的逸脱への支援	講義 演習	専任教員*		
第 8 回		神経症性障害のある人への看護 Case learning: 不安への支援、物理的に障害がない身体症状の訴えへの支援	講義 演習	専任教員*		
第 9 回		てんかんのある人への看護 Case learning: 発作誘発を防ぐ支援	講義 演習	専任教員*		
第 10 回		小児期に特徴的な精神の障害への看護 Case learning: 対人関係、コミュニケーション、社会性に障害への支援	講義 演習	外部講師		
第 11 回		精神科に入院する認知症の人への看護 Case learning: 行動・心理症状(BPSD)による易怒性や疎通の不良への支援	講義 演習	専任教員*		
第 12 回		身体疾患に由来する精神症状のある人への看護 慢性疾患のある精神に障害のある人への看護 終末期にある精神に障害のある人への看護 Case learning: 身体合併症の管理への支援	講義 演習	専任教員*		
第 13 回		精神に障害のある人とともに暮らす家族への看護	精神に障害のある人とともに暮らす家族への看護 Case learning: 家族としての苦悩への支援、親亡き後の子どもの将来への不安に対する支援、家族の強みを生かした地域生活の支援	講義 演習	専任教員*	
第 14 回	その人らしさを支える看護	Case learning: のぞみと強みをいかした支援 退院後の地域生活を支える為に必要な支援 ライフストーリーを踏まえた看護	講義 演習	専任教員*		
第 15 回	評価	筆記試験及びレポート (レポート: 各講義でGWした内容及び事例に対する看護の内容をレポートとして提出)				
テキスト 参考図書	医学書院 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 精神看護の展開 精神看護学②		評価 方法	筆記・レポート		
備考	【学習上の留意点等】 ・障害とその看護について、適宜 Case learning を実施。最終回は、学生が選択した疾患の患者を、事例から実際の看護まで考え、発表する。 ・発表はすべてのグループが発表の機会を持つようにする。					

授業計画

科目名	精神の障害とともに地域で暮らすを支える看護		単位数 (時間)	1 単位 (15)	履修 時期	2 年次	
科目 目標	1. 精神の障害とともにその人らしく生きるために、暮らしを支える資源とケアマネジメントを理解する。 2. 精神の障害とともにその人らしく生きるための自己決定を支える支援、多職種との連携を理解する。 3. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割を理解する。						
回	単 元	内 容	形式	担当教員 <small>*実務経験のある教員</small>			
第 1 回	地域で暮らすための社会資源と地域包括ケアシステム	精神に障害がある人の特性とその人らしい暮らしを支える地域包括ケアシステム 精神に障害がある人の特性 独特の感受性の高さによる生きにくさ 地域包括ケアシステムの概要と考え方 社会資源の活用を支える支援体制	講義	専任教員*			
第 2 回		地域で暮らすための支援 病院から地域への生活移行のための家族等への連絡調整と生活のための費用、住居の確保 社会参加と精神症状に適切に早期介入するためのシステム	講義	外部講師			
第 3 回		対象と家族の個別性と強みを活かす支援 対象の持つストレングス(強み)に着目した支援方法 ICF モデルの考え方 対象と家族を支援するピアグループの活用	講義	専任教員*			
第 4 回		地域の暮らしと社会資源の活用 生活支援、就労支援 障害者施設と地域住民ボランティア 地域住民との交流、看護学生との交流 多職種・多組織チーム (MDT) 対象を中心にした地域における多職種連携 医療における多職種連携	講義	専任教員*			
第 5 回		地域で暮らすためのサポート体制と自己決定支援	対象のサポート体制 パートナーであるコミュニティと多職種連携 自己決定 (エンパワメント) 支援	講義	専任教員*		
第 6 回		地域で暮らすための支援の実際	Case learning①緊急入院から社会復帰に向けた支援	演習	専任教員*		
第 7 回			②入退院を繰り返す人への支援 ③地域で生活する人への支援				
第 8 回		評価		評価 方法	筆記		
テキスト 参考図書	医学書院 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 精神看護の展開 精神看護学② 【参考文献】 精神障害をもつ人の看護 メジカルフレンド社 ストレングスモデル実践活用術 萱間真美 医学書院 2018 退院支援ビギナーズノート全訂新版 末安民生 2015						
備考	【事前学習】 ・精神障害者の福祉・支援に関する関係法規、障害者総合支援法、地域包括ケアシステム 【学習上の留意点等】 ・精神に障害がある人と家族のストレングス・レジリエンスを踏まえたリカバリーについて、学生自ら考える講義・演習を構築する。 ・各回授業に関連する簡単な事例を出し、学生に考えさせる講義とする。						